

少年非行をなくすために私達ができること

鳥取県鳥取大学附属中学校 1年 稲毛 奏音



私達中学生は、社会の一員として毎日を過ごしています。けれども、新聞やニュースでは「少年非行」という言葉を耳にすることがあります。万引きや喫煙、深夜徘徊、最近はでSNSを通じたトラブルなど、未成年者による犯罪や問題行動は、決して他人事ではありません。もし同年代の誰かが非行に走れば、それはその人自身の将来を壊すだけでなく、周りの友人や家族、そして地域社会全体に大きな影響を与えてしまいます。僕は今回、防犯について作文を書く中で、少年非行の現状や原因、中学生としての責任、そして社会や大人に望むことを考えました。

まず、少年非行の大きな入口となっているのが「盗み」や「万引き」です。たとえ小さな金額の商品であっても、それは立派な犯罪です。最初は軽い気持ちで「バレなければいい」と考える人もいるかもしれません。しかし、一度でも盗みをしてしまえば罪悪感が薄れていき、より大きな犯罪へと進んでしまう危険があります。さらに、盜難が増えればお店や地域の人たちが安心して生活できなくなり、治安の悪化にもつながります。だからこそ、私達は「たとえ小さなことでも犯罪は犯罪」という意識をしっかりと持つ必要があると思います。

さらに、最近はSNSの普及によって、ネットを通じた非行も増えています。知らない相手と安易にやり取りをしてトラブルに巻き込まれたり、他人を傷つける言葉を投稿してしまったりすることもあります。顔が見えない相手だからこそ、現実以上に相手を傷つけてしまう危険性があります。中学生として、インターネットは便利な道具である一方、使い方を誤れば自分や他人を傷つける刃物になるという意識を常に持ち続けたいと思います。

では、なぜ少年非行に走ってしまうのでしょうか。その背景には、家庭環境や学校での人間関係、居場所のなさなどがあると言われています。「誰も自分を理解してくれない」「話を聞いてくれる人がいない」という孤独感が、非行への入り口になってしまいます。だからこそ、私達一人ひとりが「仲間を大切にすること」「相手の気持ちを想像すること」を忘れないことが大切です。もしクラスメイトが悩んでいると感じたら、声をかけたり相談にのったりすることが、非行を防ぐ第一歩になるかもしれません。

ここで、中学生としての責任について考えたいと思います。私達はまだ未成年であり、社会的に守られている立場です。しかし、同時に、自分の行動には責任があることを理解しなければなりません。小さなルールを守ること、例えば挨拶をする、時間を守る、友人や先生に迷惑をかけないといった日常的な行

動の積み重ねが、将来大人になったときの責任感につながります。もし今、ルールを軽く考えて破ってしまえば、それが大きな犯罪へとつながる可能性があります。だから僕は、中学生だからこそ「今のうちに責任感を身につけること」が大切だと思います。

では社会や大人に望むことは何でしょうか。僕は、大人の人達には「僕達の話をしっかりと聞いてほしい」と思います。ときには叱ることも必要ですが、それ以上に「どうしてそうしたのか」「どんな気持ちなのか」を理解しようとする姿勢が、非行防止につながると思います。また、地域全体で子供達を見守る仕組みも大切です。登下校の見守り活動や地域行事での交流は、子供に安心感を与え、非行に走りづらい環境づくりにつながります。大人と子供が一緒に地域を守っていくことが、防犯の基本につながると思います。

さらに僕達自身も「自分の身を自分で守る」意識を持つ必要があります。自転車にしつかり鍵をかける、夜遅く出歩かない、不審な人にはついて行かないなど、基本的な防犯意識は自分の命を守るために欠かせません。小さな心がけの積み重ねが、犯罪を防ぐ大きな力になるのです。

最後に僕は「非行をしないこと」はもちろん、「非行を許さない雰囲気をつくること」が大切だと考えます。もし友達が万引きを誘ってきたら「それはよくない」と伝える勇気、SNSで誰かがいじめられていたら止める勇気、それを持つことが、僕達中学生の責任だと思います。自分が良ければいいのではなく、周りの人のことも考えられる人でありたいと思います。

少年非行は決して遠い世界の話ではありません。僕達中学生一人ひとりが意識を変え、生活の中の小さな行動から責任を果たすことで、未来は必ず明るいものになると思います。僕はこれからも仲間を大切にしてルールを守り、自分の責任を果たす中学生でありたいと思います。そして、地域の方や大人の方々と一緒に、安心して暮らせる地域をつくっていきたいです。